

科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

59

論文米中が圧倒

今年2月にニューヨークで開催された第34回米国人工知能学会(AAAI)国際会議に参加した。人工知能分野を総合的に扱う世界トップクラスの国際会議の一つである。参加者は、2017年から約1800人、2500人、3000人と年々大幅に増大してきたが、新型コロナウイルスの影響により800人が参加できなかった今年は3200人にとどまった。論文数は13年以降うなぎ上りで、特にこの数年間の論文投稿数の増加は著しい(図)。

トップクラスの国際学会では査読と呼ばれる

人との共存問う

国際会議では基調講演や招待講演をみることで研究分野の進む方向をうかがい知ることができる。今回、AAAIのギル会長は「AIは将来学術論文を書ける。3年前までは米国が不動の1位だったが、今は完全に逆転している。少し離るか」という基調講演で、英国、豪州、日本で、科学という最も知

国際会議では基調講演や招待講演をみることで研究分野の進む方向をうかがい知ることができる。今回、AAAIのギル会長は「AIは将来学術論文を書ける。3年前までは米国が不動の1位だったが、今は完全に逆転している。少し離るか」という基調講演で、英国、豪州、日本で、科学という最も知

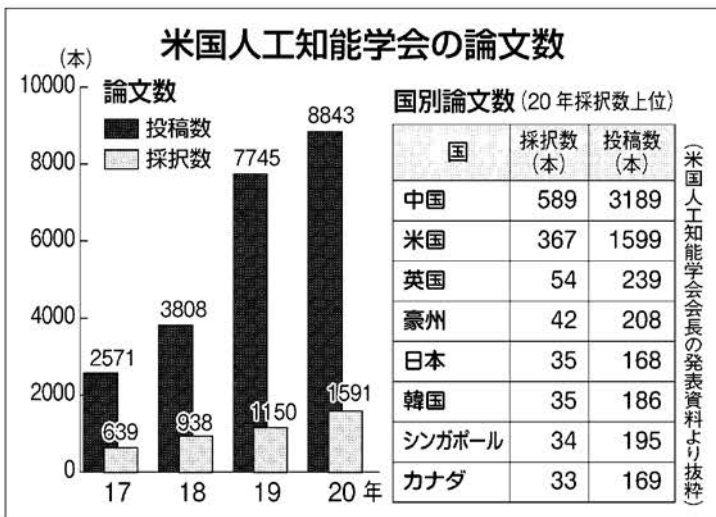
国際会議では基調講演や招待講演をみることで研究分野の進む方向をうかがい知ることができる。今回、AAAIのギル会長は「AIは将来学術論文を書ける。3年前までは米国が不動の1位だったが、今は完全に逆転している。少し離るか」という基調講演で、英国、豪州、日本で、科学という最も知

人工知能研究の最前線



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センターフェロー(システム・情報科学技術ユニット) 茂木 強

京都大学理学部卒。三菱電機株式会社入社。計算機言語処理系などの開発を経て、情報技術総合研究所にて情報システム技術の研究開発や事業化に従事。米スタンフォード大学計算機科学科修士課程修了。13年より現職にて人工知能、ロボティクス、ブロックチェーンなどを担当。



本、韓国の3位グループが続くのが近年の人工知能分野の国際学会の一般的な傾向である。倫理と社会に関する国の可能性を論じた。またノーベル経済学賞を受賞したカーネマン教授とチューリング賞の受賞者のヒントン教授らは、人工知能は人間のよう感情に豊かであるのに対して、こちらは理性的に意思決定できるかをテーマに討議した。これらは人工知能の将来に向けた制と多岐にわたる。人間の倫理、働き方、政策、統

国際会議では基調講演や招待講演をみることで研究分野の進む方向をうかがい知ることができる。今回、AAAIのギル会長は「AIは将来学術論文を書ける。3年前までは米国が不動の1位だったが、今は完全に逆転している。少し離るか」という基調講演で、英国、豪州、日本で、科学という最も知

国際会議では基調講演や招待講演をみることで研究分野の進む方向をうかがい知ることができる。今回、AAAIのギル会長は「AIは将来学術論文を書ける。3年前までは米国が不動の1位だったが、今は完全に逆転している。少し離るか」という基調講演で、英国、豪州、日本で、科学という最も知

(金曜日に掲載)